



---

---

# あたらしい 農業技術

---

---

No.504

切り花用マーガレット新品種  
‘サザンエレガンスホワイト‘の  
育成と特性

平成 20 年度



# 要 旨

## 1 技術、情報の内容及び特徴

- (1) 伊豆農業研究センターでは、年内から安定して出荷可能で草姿の良い、白花、桃花、黄花の本県独自品種育成を進めてきました。これまでに白花の‘プリンセスリトルホワイト’および‘サザンビーナスホワイト’、桃花の‘ピンクサザンキャンドル’ および‘フェアリーライトピンク’、黄花の‘プリンセスレモネード’等を県内産地に普及しました。
- (2) 近年では主力品種‘伊豆マグ 85’ および‘在来白’において開花遅延やブラスティング等の発生により生産性が低下しつつあることから、この代替品種とするために中輪、一重咲きの白花で年内から開花する‘サザンエレガンスホワイト’を育成して、新たに県内の産地に導入しました。
- (3) ‘サザンエレガンスホワイト’は一重咲き、中輪の白花で、花型は市場性の高い‘在来白’と同等で、開花時期は‘在来白’、‘伊豆マグ 85’より約1か月早いことから、年内の安定出荷が期待できます。
- (4) あわせて、‘サザンエレガンスホワイト’の市場性について調査し、有望性を確認しました。本品種は、従来主力品種である‘在来白’、‘伊豆マグ 85’の代替品種として期待されています。

## 2 技術、情報の適用効果

- (1) 新品種の導入により、切り花用マーガレットの産地が形成されます。
- (2) これまでの主力品種であった‘在来白’、‘伊豆マグ 85’の代替品種であり、産地内での主力品種の切り替えを進めることができます。
- (3) 市場性の高い新品種の導入により、マーガレットの消費拡大が期待されます。

## 3 適用範囲

静岡県内の鉢物産地

## 4 普及上の留意点

- (1) 現地適応性試験は静岡県東部および南伊豆地域で行いました。
- (2) 種苗法による品種登録を出願中であり、栽培にあたっては静岡県との許諾契約が必要です。

## 目 次

はじめに	1
1 ‘サザンエレガンスホワイト’の育成	2
(1) 育成経過	2
(2) 選抜結果	2
2 ‘サザンエレガンスホワイト’の生育特性	4
(1) 現地試作結果	4
(2) 現地適応性	4
3 ‘サザンエレガンスホワイト’の市場評価	5
(1) 調査方法	5
(2) 調査結果の概要	5
4 現地での栽培特性と作型	5
(1) 夏植え栽培	7
(2) 秋植え栽培	7
(3) 収穫・出荷時の注意点	7
おわりに	8

## はじめに

カナリア諸島とマデイラ諸島が原産のマーガレットは、江戸時代末期から明治時代初期にわが国に導入されています。伊豆半島には千葉県安房郡南無谷の金木道夫、信之親子により、昭和 3 年頃にもたらされ、昭和 15 年頃までに、主産地の南伊豆町伊浜を始め、下田市、河津町、西伊豆町等、南伊豆地域全体に急速に広がりました。

マーガレットは、海岸線の無霜地帯における貴重な換金作物として、急峻な傾斜地を切り開いて栽培され、耕地の少ない南伊豆地域の生産者にとって重要な作物として位置づけられています。現在でも、南伊豆町を中心に、傾斜地での栽培は続けられていますが、そのほかの地域では平坦な土地での施設栽培も増加しています。すなわち、産地では天然の気象条件を利用した省力的な栽培と、ビニルハウス・温室等による施設栽培とに分化しています。品種育成もこのような栽培環境の変化に対応していく必要があります。

しかし、‘在来白’、‘伊豆マグ 85’ など従来の主力品種では、夏秋期の高温による開花遅延、ブラスチングの発生、立枯れ症状の発生など生産性の低下が著しく、産地では新品种に切り替えを進めてきました。これまで、伊豆農業研究センターでは‘プリンセスリトルホワイト’、‘フェアリーライトピンク’、‘プリンセスレモネード’などの 8 品種を県内産地に導入して品種の切り替えを進めてきました。しかし、市場評価の点では中輪タイプで白花の‘在来白’の人气が高く、完全に品種を切り替えて産地の評価を高めるまでには至りませんでした。

しかし、‘在来白’、‘伊豆マグ 85’ とともに 3 倍体であり、この改良はきわめて困難ですが、伊豆農業研究センターでは、可能な限り交配・自然実生の獲得を行い、草姿、花型が‘在来白’、‘伊豆マグ 85’ に匹敵する一重咲き、中輪、白花の切り花用マーガレットの開発を進めてきました。

その結果、切り花の草姿が‘在来白’に匹敵する‘サザンエレガンスホワイト’を育成するとともに、産地への導入をすすめ、あわせて市場評価についても確認することができました。本品種は品種登録を出願後、南伊豆地域での栽培が急速に増加し、主力品種になりつつあります。

# 1 ‘サザンエレガンスホワイト’の育成

## (1) 育成経過

平成16年度に静岡農試南伊豆分場（現静岡農林研伊豆農研セ、賀茂郡南伊豆町）において、107交配組合せ（自然交雑実生を含む）で交配を実施して実生を獲得しました。このうち、育成品種‘ホワイトジュエル’に育成品種‘アーリーホワイト’の花粉を交配して得られた実生65個体から2個体を選抜して、‘04-3-1’、‘04-3-2’の系統名を付与しました。平成17年度に二次選抜及び現地適応性試験を行った結果、‘04-3-2’を選抜して育成系統候補‘伊豆24号’としました。平成18年度に三次選抜と現地適応性試験を行い、有望性が確認できたことから、平成18年11月に育成を完了しました。品種名を‘サザンエレガンスホワイト’に決定して品種登録を出願しました（品種登録出願番号：20838）（図1）。

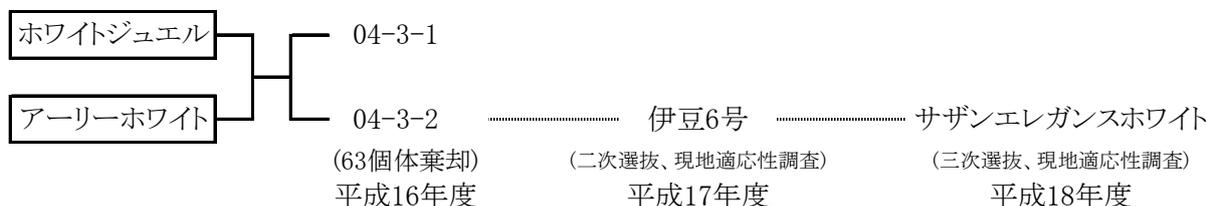


図1 ‘サザンエレガンスホワイト’の育成系統図

## (2) 選抜結果

‘サザンエレガンスホワイト’は10月下旬から開花する中輪タイプの白花で、‘在来白’並みの花型で、草姿のバランスが良い切り花用のマーガレットです。二次選抜時点での調査では‘ホワイトリップル’と同時期で、‘在来白’、‘伊豆マグ85’より早く開花しました（表1）。

表1 ‘サザンエレガンスホワイト’の生育開花特性(平成17年度)

品種名	草型	草丈	葉の形質						開花			花色		年内 本数	うち <sup>x</sup> 上物	選抜 <sup>w</sup>	
			葉片幅	葉の欠刻	葉緑の鮮葉	葉の粗密	葉身長	葉身幅	葉色 <sup>y</sup>	開始	花径	花型	舌状花				管状花
サザンエレガンス ホワイト	狭	長	中	中	深鋭	粗	短	中	緑	10月下	中	一重	白	黄	7.0	5.0	A
在来白 <sup>v</sup>	中	中	中	中	深鋭	中	中	中	濃緑	11月中	中	一重	白	黄	1.3	1.3	—
伊豆マグ85 <sup>v</sup>	狭	長	中	中	深鋭	中	中	広	緑	1月	中	一重	白	黄	0.0	0.0	—
ホワイトリップル <sup>v</sup>	狭	中	狭	深	深鋭	粗	短	中	灰緑	10月下	小	一重	白	黄	5.0	5.0	—

<sup>z</sup> 生育特性は種苗分類調査報告書(マーガレット)による栽培期間中の観察調査

<sup>y</sup> 葉色は‘在来白’(緑)を基準とした場合の濃淡等による観察調査

<sup>x</sup> 採花時点で出荷基準を満たしていると考えられるものの本数(切花長40cm以上)

<sup>w</sup> 選抜基準、A:切花用、B:鉢物(花壇)用、C:交配素材、X:棄却

<sup>v</sup> 対照品種

## 2 ‘サザンエレガンスホワイト’の生育特性

### (1) 現地試作結果

‘サザンエレガンスホワイト’は、中輪タイプの白花で、草姿・花型が良く、開花開始時期は10月下旬と‘在来白’よりも早く咲きます。二次選抜と同時に行った調査時点では、本品種には‘在来白’特有の秋期のプラスチックは全くみられませんでした（表2）。

表2 現地試作結果の概要(平成17年度)<sup>z</sup>

品種名	花色	花型	花径	草丈	開花開始 <sup>y</sup>	現地生産者 <sup>x</sup> の観察状況	評価 <sup>w</sup>
サザンエレガンスホワイト	白	一重	中	高	10月下旬	草姿良い(A、B、C、D) 開花早い(C、E、F) プラスチックしない(D、F)	○
在来白	白	一重	小	中	10月中	対照品種	—
プリンセスリトルホワイト	白	二重	小	中	9月下旬	対照品種	—

<sup>z</sup> 花径、草丈等の特性は‘在来白’を基準に記載(特性調査基準に準拠)、作型は2月下旬鉢上げ

<sup>y</sup> 6月下旬定植の作型における開花時期

<sup>x</sup> 東伊豆町(A)、河津町(B、C)、南伊豆町(D、E、F)、西伊豆町(G)

<sup>w</sup> 評価、×:適さない、△:やや適する、○:有望

### (2) 現地適応性

南伊豆地域21圃場における栽培状況を調査したところ、いずれの地域も7月上中旬定植でした。その後の管理は各生産者の慣行として調査しました。摘心は、7月下～8月上旬に行われていました。開花時期は10月上旬～11月中旬が大部分でしたが、一部、日照不足のハウスでは12月に入るものもみられました（表3）。

表3 ‘サザンエレガンスホワイト’の現地適応性(平成18年度)<sup>z</sup>

地域名	調査数	定植日	最終摘心	開花時期
南伊豆町伊浜	7	7月上中	8月上	10月下～11月下
南伊豆町落居	4	7月上中	8月上中	11月中
西伊豆町田子	7	7月上	7月下～8月下	10月下～12月上
西伊豆町宇久須	1	7月4日	7月下	10月中
東伊豆町稲取	1	7月4日	7月下	10月上
河津町峰	1	7月4日	7月下	10月中

<sup>z</sup> 栽培は各生産者の慣行とした

‘サザンエレガンスホワイト’の草姿、草勢、草丈、分枝性、開花時期、バランスおよび花型については、いずれの生産者にも高い評価を受けました。それぞれの生産者のコメントを総合すると、生育が良い、草丈が高くなる、開花が早い、花型が良い等の評価がありました。この一方で、花首が伸びやすいとの意見もみられました（表4、図2）。

この結果、育成品種‘サザンエレガンスホワイト’は生産者の評価が非常に高く、今後、産地における主力品種の一つとして定着する可能性が示唆されました。

表4 'サザンエレガンスホワイト'の評価(平成18年度)

地域名	調査数	草姿 <sup>y</sup>	草勢	草丈	分枝性	開花時期	バランス	花色	花型	総合評価	生産者のコメント
南伊豆町伊浜	7	3.5	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	開花早い。草丈が高くなる。立枯れしにくい。
南伊豆町落居	4	3.0	4.0	4.0	3.5	4.0	3.5	4.0	4.0	3.8	開花早い。花首伸びやすい。花形が良い。
西伊豆町田子	7	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	生育が良い。草丈が高くなる。日照不足で開花遅れる。
西伊豆町宇久須	1	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	生育が良い。草丈が高くなる。
東伊豆町稲取	1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	花型が良い。
河津町峰	1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	花が大きい。草丈高い。

<sup>z</sup> 栽培は各生産者の慣行とした

<sup>y</sup> 評価項目:1(悪い)~4(特に良い)



図2 現地圃場における生育状況(河津町峰)

### 3 ‘サザンエレガンスホワイト’の市場評価

#### (1) 調査方法

- ①調査場所 京浜地区（O社）、中京地区（Y社、N社）の主力3社と関連する仲卸、小売店。
- ②試験構成 現地試作して得られた切り花サンプルを各市場に送付し、市場担当者、仲卸、小売店でアンケート調査を実施。実施日：2006年12月12日。
- ③調査項目 草姿、花型、花色、出荷時期等を既存品種等との比較により5段階評価。
- ④標本数 O社：市場1、仲卸1、Y社：仲卸1、小売店1、N社：仲卸1、小売店3  
合計8

#### (2) 結果の概要

切り花のバランスを評価する草姿は、全体の75%で普通～良いと評価されました（図3）。

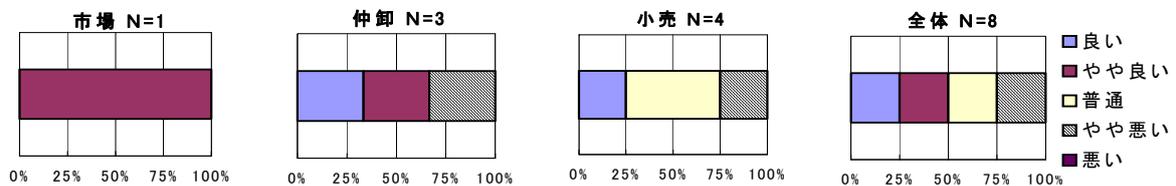


図3 草姿の評価

花型では、普通～良いとの評価が大部分でした（図4）。

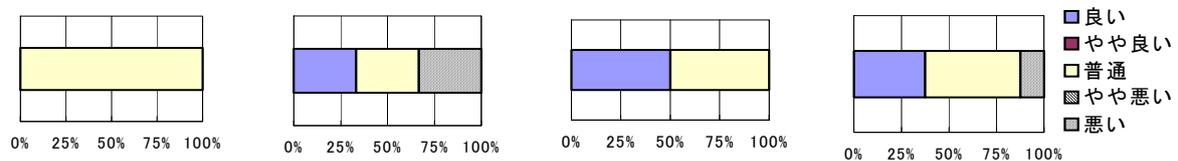


図4 花型の評価

花色では、普通～やや良い程度との評価でした（図5）。

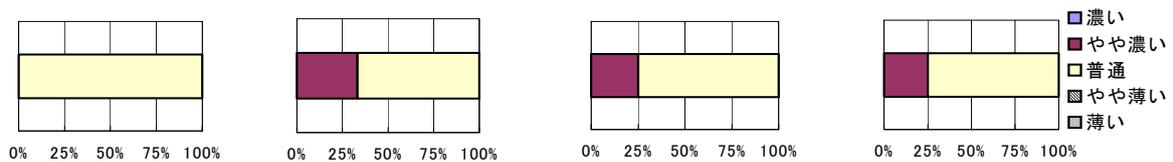


図5 花色の評価

日持ち性については、市場および小売店ではやや良い～良いと評価を受けましたが、仲卸ではやや悪い～悪いとの評価もありました（図6）。

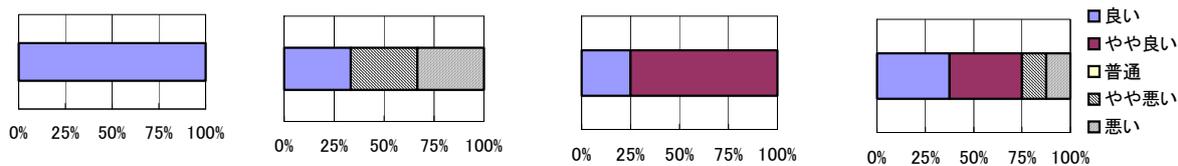


図6 日持ち性の調査

階級別の需給予測については、L、M階級を中心に需要が伸びる可能性があるとの評価でした(図7)。

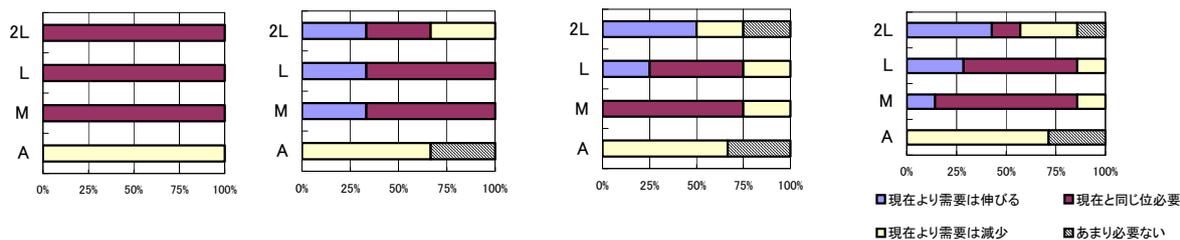


図7 ‘サザンエレガンスホワイト’の階級別需給予測

小売店からのコメントとしては、次のものがありました。

- (ア) 良い花でした。もう少し柔らかさも欲しい。楽しみな品種。中大輪の品種の出荷を確保して欲しい。
- (イ) つぼみがもう少し咲いた状態でよい。緑の葉もグリーンに使っているので、葉のシャキッとしたものが良い。
- (ウ) 花首が短くて良い。日持ち性は他の産地と同等。‘伊豆マグ85’は使いにくかった。
- (エ) 花束にした場合、葉の水下がり、花首の垂れが目立つことがある。

以上の結果から、育成品種‘サザンエレガンスホワイト’は、伊豆地域から出荷されている市場において、花型、花色では高い評価を受けたが、切り花の草姿、日持ち性等では一部で高い評価と欠点も混在していました。階級別の需給予測をみると、‘サザンエレガンスホワイト’は中位等級での伸びが期待される品種であると考えられます。今後、現地での栽培における均質化を図ることで、‘在来白’、‘伊豆マグ85’に替わる主力品種となりうると考えられました。

#### 4 現地での栽培特性と作型

##### (1) 夏植え栽培

マーガレットでは最も一般的な栽培法です（図8）。

挿し芽時期は6～7月で、その14～20日後に定植します。摘心は7月下旬～8月上旬に1回行い、9月上旬までに短く発らいした枝は上部で摘心します。

作型	品種名	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
夏植え	サザンエレガンス ホワイト	□	— ◎	— x ~ x	—	[出荷期間]						
参考(既存 品種)	伊豆マグ85	□	— ◎	— x	—	[出荷期間]						
	在来白	□	— ◎	— x	—	[出荷期間]						
	アーリーホワイト	□	— ◎	— x — x	—	[出荷期間]						

図8 夏植えの栽培の作型図 1)凡例、□:挿し芽、◎:定植、x:摘心、[ ]:出荷

##### (2) 秋植え栽培

近年、品種の多様化により、労力配分のため多く取り入れられている作型です（図9）。

挿し芽時期は8月中旬～9月中旬で、その14～20日後に定植します。ただし、気温の低下とともに発根は遅れます。南伊豆町伊浜を中心とする無霜地帯では、この作型で、12月中旬以降の出荷も可能です。

作型	品種名	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
夏植え	サザンエレガンス ホワイト				□	— ◎	— x	[出荷期間]				
参考(既存 品種)	伊豆大輪白				□	— ◎	— x	[出荷期間]				
	アーリーホワイト				□	— ◎	— x	[出荷期間]				

図9 秋植え栽培の作型図 1)凡例、□:挿し芽、◎:定植、x:摘心、[ ]:出荷

##### (3) 収穫・出荷時の注意点

切り花は一輪開花で行い、‘在来白’と同等の荷姿になるよう、出荷調整をします。圃場で芽かきなどを行うと、花首が徒長しやすくなったり、芽かき部分が褐変して見苦しくなるので避けるようにします。

## おわりに

マーガレットは、平成 10 年以降、夏以降の気象変動が大きく、全国的に生育不良、出荷量の減少が続き、産地も減少傾向です。特に既存品種の‘在来白’では、高温による生育不良、「立枯れ」、「ブラスチング」等が多発しており、県外の産地ではまったく切り花を出荷できない生産者も多いと聞いています。南伊豆地域の産地でも‘伊豆マグ 85’の生育不良や開花遅延が数多くみられ、収益性が低下しています。

今回紹介した‘サザンエレガンスホワイト’は、平成 17 年度以降、順次、現地試験を繰り返しており、‘在来白’並の花型で、夏の暑さにも強く、生産者から期待されています。今後、さらに現地での栽培特性を把握することで、生産振興に役立てていけるものと考えています。

これまでに、伊豆農業研究センターでは、一部、農林技術研究所新品種開発部と協力しつつ、切り花用 9 品種、鉢物・花壇用として 17 品種を開発し、現地に普及してきました。これは、世界的にもトップクラスの品揃えです。今後ともマーガレットの品種育成を継続して進めていく計画であり、①白、②桃、③黄花で、一重、八重等の新しい花型や生産性の高い切り花用品種の育成を目指しています。

農林技術研究所 伊豆農業研究センター  
研究主幹 稲葉善太郎

平成20年10月発行

静岡県産業部振興局研究調整室

〒420-8601

静岡市葵区追手町9-6

TEL 054-221-2676

